

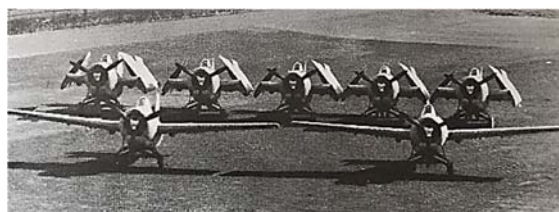
ワケ カタチには理由がある(14)

～F4F-4 ワイルドキャット(Wildcat)艦上戦闘機



出典：「Picture History of American Aircraft Production」Dover Publishing

本機は、1937年に原型が初飛行した、第二次世界大戦の米国海軍の戦闘機です。太平洋戦争緒戦において零戦の敵役でした。日本人の目から見ると、お世辞にもかっこいいとは言えない機体ですが、胴体に着陸装置を有し、タフな着艦にも耐える質実剛健な機体でした。サブタイプ-4の特徴は、折り畳み式主翼です。主桁に斜め後方に回動ヒンジを配置することで、その先の主翼を90度捻って胴体側面後方に折り畳める構造を有していました。これは実用的には大変優れた発明で、「five-into-two」のキャッチフレーズのように、幅方向において(主翼を折り畳まない)2機のスペースに(主翼を折り畳んだ)5機を収納でき、小型の護衛空母での運用を可能にしました。この発明は、同社のTBFアベンジャー攻撃機やF6Fヘルキャットにも採用されています。



【模型について】

英国のエアフィックス社(Airfix)1/72のインジェクションキットです。

キャノピー前の胴体が太い気がしますが(私のイメージだとカワハギ

(Thread-sail filefish)のようなイメージ)、一方、このキットの素晴らしいところは、折り畳み状態と展開状態を選択して組み立てられることです。せっかくなので、ネオジム磁石を使って、差し替え式で両状態を替えられるように組んでいます。(中川裕幸 2021年4月・改定2024年3月)

